

支援学校の先生 ○…十分だ ×…十分ではない

	問8:こどもたちの読書環境は十分だと思いますか? 《理由》
○	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコンも設備され、利用しやすくなったと思う。 ・市の人口比からも、とても充実していると思います。(私自身が他市のものとして…) ・①学校の図書室は十分な蔵書数がないと思う。②市民図書館は本校生には利用しにくい。→ 交通面等
×	<ul style="list-style-type: none"> ・本の数や図書室の環境作り(子どもが見たいと思うような)など…。 ・学校図書室の本が少ない。 ・本の冊数、新刊がまだまだ。とはいえ、私らの子どものときに比べれば、日々整備されつつありますね。ありがたい。 ・十分でないことはないが、読書の意識を高める取りくみが必要だと思う。 ・学校図書館の整備がきちんとできていない。 ・支援学校なので、子どもが主体的に読書できにくい。(環境や子どもの興味関心) ・本校の場合、図書室の子どもたち向けの冊数が少ない。また3Fにあり、利用しにくい。 ・学校図書館の図書が充実しているとはいえないから。 ・校内の本の数が少ないと思う。 ・市立図書館が学校から遠く、利用する機会があまりない。 ・本校の子どもに適した本があまりそろっていないから。 ・本屋に良書が売られていない。 ・保護者の意識(読書に対する)を高める工夫があまり行われていない。小さい子どもは親と一緒にいくことになるので。 ・それぞれの障害の程度に合った本がそろっていない。 ・ゆっくり本を読む時間と場所を確保できない。 ・書籍に関する予算が不足している。 ・学校の図書館(室)が、不十分…本の数、整理など…。 ・家では本より、テレビやゲームの方が魅力的になっている状況だから。 ・よい本が学校に少ない。図書室の本が少ない。 ・知的障がいの子どもに適した本が少ないから。 ・読みたい本が少ないのと借りられる場所が限られており読みたい時に借りれない。 ・近くにない。図書室も充実してない。 ・学校内の図書室の管理がむずかしい。蔵書が少ないので。 ・読書を楽しむ環境づくりが十分でない。 ・図書室が遠くて、3Fというすぐ気軽に行けないところにある。 ・本の数が少ない。 ・本の価格が比較的高く、読書以外の楽しみが増え、そちらに時間をより多く費やすようになっているから。 ・支援学校では、なかなか環境的に本が充実していない。 ・子どもたちが忙しすぎて、いつ本を読むのだろう…?と、思う時があります。本を読む暇があったら、勉強しなさいと、言われている人をみたことがあります。
どちらも ない	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもたちの地域の環境によるから。

支援学校の先生

問9:どのようなことをすれば子どもたちが本を読むようになると思いますか？

- ・日常の中に本をもっと取り入れる。目にふれる耳に聞かせるひん度をあげることが大事だと思います。
- ・小さい頃から読み聞かせをすること。
- ・パソコン、テレビがなくなれば・・・。
- ・学校や家庭など子どもをとりまく周囲の人が本をよんでいる姿をみせること。
- ・ゆっくりした時間。落ち着いた気分。
- ・読書する時間をカリキュラムの中に位置づけるとよい。
- ・情報の交流、交換、図書館とは相容れにくいですが、ベストセラー等話題をふりまいていく!!(貸し出し数、回転率、検索数etc..)
- ・新しい本が入ってくる。本を読む習慣を身に付ける。本の紹介をする。
- ・さわって遊べるおもちゃや本のコーナーが図書館内にあると、幼児や障がいのある子も楽しめると思います。
- ・幼児の頃から本にふれる機会を多く持つ。特に家庭での読み聞かせなど親子でふれあいながら、本にかかわることが大切だと思う。
- ・教室に読書環境(本棚)をつくる。
- ・環境をととのえることもですが、自分が子どもに良い本を知ることが大切と考えます。
- ・興味のある本や勉強の補足になるような本があればきっかけを作るいい機会にはなると思います。
- ・本にふれる機会を多くもつ。
- ・学習活動の中に読書を取り入る。テレビゲームの普及で、日常生活で読書をする子が少ないので。
- ・ゲーム、ネットを未成年に接触させない。(ギャンブルと同じ扱いにする)
- ・TVの時間を減らすことが大切ではないかと思います。
- ・興味を引く本をそろえる。
- ・誰でも気軽にはいれるようにしてほしい。◎車イスでもはいりやすく。◎床にすわれるスペースなど
- ・読書タイムを設ける。
- ・学校や地域で、本の面白さや魅力に触れる機会を多く作るー抽象的ですがすみません。
- ・よみきかせ。
- ・図書館の閉館時刻の工夫。
- ・読み聞かせを中心とした読書指導や、障がいの程度に応じた本の紹介が定期的実施されるとよい。
- ・読書にもっと興味を持ってもらう。授業等で図書館を利用する。
- ・本の種類を増やしてほしいのと移動図書館の日をふやしてほしい。
- ・けいもう活動。
- ・蔵書をふやし、えつ覧等のための充分スペースのある図書室が必要。
- ・「①学校の図書室は充分な蔵書数がないと思う。」についてはその予算増を確保すること。
- ・「②市民図書館は本校生には利用しにくい。」については方策を考えてみることも必要。
- ・例えば移動図書館車が学校とうちあわせて日時をきめて学校を訪問する・・・など。
- ・読書の時間の設定。
- ・読み聞かせをしてくれる団体の方々を市でもっと援助する。
- ・楽しい本の読み聞かせ、本の活用法などの講演。
- ・本に触れる機会をふやす。
- ・学校では時間的にも限界があり、子どもも多様である。家庭環境、保護者の考えにも左右されると思います。
- ・表紙のイラストなどの工夫。
- ・電子書籍。読む専用の時間の確保。
- ・保護者(家)でも本を読むことで、学校でも親しみを持てるようになると思う。
- ・字で読むよりも、動画で見た方が早いと思う人が多いので、文章を読ませて、その通りに絵を動かしていたりなどの活動をする、想像力も育てられ、読む楽しみもあるのかな・・・と、感じます。

